

編集後記

今月号の特集は、働き方改革第2弾です。日建連が会員企業に対して行ったアンケート調査では、土木・建築いずれも4週5休以下の現場が約8割を占めており、多くの現場は1カ月のうち休日が5日以下という現実があります。

この現実を目の当たりにすると建設現場での週休二日定着への道のりは遠いように感じますが、我々の挑戦はまだ始まったばかりです。生産性向上などの自助努力を第一に、そして労働日数減＝総収入減とならない仕組み作りなど、誰もが安心して働ける建設業を目指して取組みを進めていきたいと思えます。(1)

特集取材を行うため静岡県の浦川に向かう途中、乗り換えの豊橋駅にBCS賞受賞作品があったことを思い出し、今月号で紹介している「穂の国とよはし芸術劇場 PLAT」に立ち寄りました。繊細で丁寧につくられた内空間に感嘆。素晴らしい建築とは、実際に訪れてこそ初めてその神髄が理解できるんだと改めて実感しました。(T)

発行 一般社団法人 日本建設業連合会
〒104-0032
東京都中央区八丁堀2-5-1
東京建設会館
TEL 03-3553-4095
FAX 03-3551-4954
URL <http://www.nikkenren.com/>

発行者 有賀長郎

企画・編集 一般社団法人 日本建設業連合会
広報委員会

制作 株式会社Kプロビジョン

デザイン 株式会社コンセント

印刷 株式会社耕文社

©2017 日本建設業連合会
「ACE建設業界」は日本建設業連合会の登録商標です

年間購読料：4,800円(送料込)

≪新刊紹介

学校では教えてくれない
施工現場語読本
彰国社



「猫車」「トラ」「朝顔」「祈り」。建設現場で働いている人なら一度は耳にしたことがあるはずである。打ち合わせなどで職人さんと話しているときにその種の言葉が出てきたことにおぼえはないだろうか。しかし、なぜそういう言葉を使うのか、なぜそういうようになったのかを知る人はどのくらいいるだろう。建築用語辞典はあるが、その中にそういった説明や解説はあまり載っていない。著者の秋山氏は、大手建設会社に勤務する社員である。連載当時は建築技術部に所属しており、当時の上司と現場語について語り合っていたときにこの企画を思いつき、建設専門書の出版社(株)彰国社に相談したところ、同社が発行していた建築施工の専門月刊誌『建築の技術 施工』(以下「施

工」。二〇〇一年三月休刊)に、一九九四年四月から二〇〇一年三月までの七年間、「建築探偵・建築調査」「用語編」として連載された。秋山氏は今回の出版にあたり、掲載された八四編を見直し、六編新たに書き加えるとともに、掲載九〇編を「道具」「仮設」「職人」「服装」「杭」「揚重機」「掘削」「コンクリート」「仕上げ」「状態」の一〇項目に分類整理し取りまとめている。あらためて読んでみると現場で使われているこれらの言葉には諸説あるようだが、そのいわれや使われ方がよくわかる。現場語の意味などを知るうえで通勤の車中で軽く読めるので、一度書店で手に取ってみてはいかがだろうか。

著者：秋山文生
発行：株式会社 彰国社
仕様：四六変形判 192ページ
定価：2,000円(税別)